



学内での献血を促す広告をエスカレーターの手すりに張り、効果を検証する研究に、金沢工業大（野々市市扇が丘）が取り組んでいる。身の回りの物が広告に活用できることを明らかにするのが狙い。（都抄編）

研究しているのは、情報工学部（野々市市扇が丘）の神宮英夫研究室。屋外広告などを手掛けるフジサフ・コーポレーション（野々市市）の学生が、エスカレーターの手すりに「献血しなぐ命」という文字を貼った。研究は六月十九日から始まる。四月下旬に設置した。調査は、研究部の同僚部四年、山口巧将さん（三）が学内での献血があった二十一日、献血しに来た学生数を聞き取った際、学生の目に「献血しなぐ命」と書かれた文字が目に刺さると感じたという。研究部は六月十九日

手すりの広告見る？

の献血の際にも同様の調査をする。研究では、エスカレーターに乗る学生が広告をどう見るかも調べている。眼球の動きを把握する特殊な眼鏡をかけてもらい、データを収集。八月ごろに分析し、効果を明らかにするとしている。山口さんは「エスカレーターのような何げない身の回りの物が広告に活用できる」と話している。

献血を促すため、エスカレーターの手すりに貼られた広告。野々市市の金沢工業大で

エスカレーター、効果検証 金沢工大 神宮研究室